



DAMANHUR
ダマヌール日本ニューズレター

ぽぽろ

POPOLO



秋号

《第35号》

発行 ダマヌール日本

発行日 2014年11月1日

<http://damanhur.jp>

光の都市 ダマヌール

変わり続ける新たな社会の実現



ポポロの目、オープン神殿にて

1975年、北イタリアの地に13人の創立者によって始められたダマヌールは、スピリチュアルリーダー、ファルコ・タラッサコ（1950-2013）のアドバイスをもとに、深い精神性に基づく継続した活動によって、本来の人間が持つ能力を取り戻し、誰もが人生の真の主人公となる新しい社会の実現を目指しています。それは全ての存在と調和的に共存する、愛と互助に基づいた社会です。

この“光の都市”の存在が日本に紹介されて15年になります。グローバル化の波に押し流され、豊かな人間性によって成り立つ社会の崩壊が心配されるこの時代に、持続可能な社会モデルとして創造されたダマヌールの現在をご紹介します。

プロジェクトを持ったコミュニティの連合体

ダマヌールは、共通の理念と社会・経済組織を基盤として、それぞれに実現しようとするプロジェクトを持つ20以上のコミュニティの連合体です。在住市民は現在600人程で、共通の夢の実現に向けて協力し合って生活しています。コミュニティは世界各国から集まった人々で形成され、もちろん戸籍上の家族ではありませんが、血縁関係を越えてお互いを思いやり、理解のために語り合い、夢

のために手を動かして働きながら共に進化していきます。この根底にあるのは「毎日24時間の行動すべてを通じて、物質の世界のあらゆる領域に対して、物質的な豊かさのみでなく、同時に精神的な付加価値を生み出していく」という思想です。そして理想の実現に対しては、個人としても全体としても、常に積極的に研究に取り組み、絶え間なく変容し続けるように、探求と努力と行動の継続を惜しみません。

仕事は、各自が表す他の人たちへの贈り物という考え

から、手を通して思いやりや理想を表現することを基本としています。各市民は、自立した経済基盤を持つという基本から、皆が仕事を持ち、コミュニティー内部にとどまらず、一般社会の中で専門的な仕事を持つ市民も多く存在します。コミュニティーは、共通理念を実現するための歯車のようなものであり、一つひとつのプロジェクトが活性化して動き出すことで全体が加速していきます。

ダマヌールを支える4つの構造

ダマヌールの社会は、個々の成長と理想に向けた変化によって、個人の集合体である社会全体が成長を遂げていくために、①メディテーションの学校、②社会組織、③ゲームオブライフ、④テクナラカートという4つの組織から成り立っています。

メディテーションの学校は、一人ひとりが人生の主人公となるために、人間の原理などの秘教的知識を学ぶ学校です。メディテーションの学校で得た知識を社会に実用的に表現するのが社会組織であり、80以上のサービスや事業活動を生み出し、約600haの土地建物を所有するコミュニティーの集合体として、独自の社会性を表現しています。連合体の最高責任者レ・グイダは、6ヶ月毎という短期間で、メディテーションの学校に参加する市民の中から2名が互選されます。

ゲームオブライフは、人生を偉大な冒険と捉えて、柔軟性のある発想や行動で社会に変化と成長の継続を実現させています。たとえば、市民は動物や植物の名前を獲得します。これは、それまで所属してきた与えられた役割を持つ一般社会を脱して、自分を変えて生きるという意味の表明です。また、選択した名前を持つ種のマインドに繋がることで、調和的な共存を自覚していきます。常に明確な目標に向けて、人間のグループの成長を適切に表現できる社会の形を追求するため、ゲームオブライフでは社会的な実験をしています。まずは小グループの中で実験し、そこで得た有効な結果をダマヌール社会全体への変化に適應させます。弱肉強食的な競争や奪い合い、他者の排除で成り立つ社会でなく、社会が個人を受け入れ、エコロジカルに「安定して変容し続ける社会」は、このシステムに



よって実現しています。

テクナラカートは、個々の市民が持つ長所を伸ばして貢献し、ダマヌールの憲法に沿って短所を改め、物質的にも、精神的にも自由な人間性を獲得して確実な変容に取り組む、個人の変容を実現する組織です。ひとりよがりにならないため、グループの中で相互に支え合うシステムの中で変容を遂げるということから錬金術的な組織とも呼ばれます。

ダマヌールの憲法

ダマヌールには「愛と互助の理想」を表す憲法が制定されています。基本的な思想である「人類の進化に向けた精神的探求」を目指し、小さな一人という個人で存在するのではなく、個々がつながって、大きなひとつの個人として存在するための市民が持つべき信条が表されています。

この憲法は、連合体ができる以前、理想に基づいて人々が集まって来た初期の段階で制定されました。明確な理想と目的を共有し、大きな目的を実現するために、自己中心的で個人の都合を優先することのない人間のグループの形成を目指したのです。個人主義では大きな夢は実現できません。コミュニティーが共有する夢を実現するために、自分は何ができるのか、お互いをよく知って、ダマヌールという集合体の一つの細胞として自分の役割を果たす利他主義によって、深い精神性を獲得することが可能となるのです。各コミュニティーは、同じ目的を実現するために基本理念に合意した臓器といえます。臓器が助け合いながら共存することで全体を動かしています。

当初は86もの条項がありましたが、市民の成長によって多くが常識となって規則による強制が不要となり、現在は15条まで減っています。

ダマヌールの憲法(抜粋)

1. 市民は、信頼・尊敬・明快さ・受容・結束・そしてたゆまざる内面の変容を通して、お互いに助け合う兄弟姉妹である。一人ひとりとは他者に、もう一度やってみるという可能性をさらに与えることに専心する。
2. 各市民はポジティブで調和的な思考を広め、すべての行動と思考を精神的成長に向けることに専心する。各市民は、どんな行いもシンクロニックラインを通して世界中に増幅され反映されることを認識し、社会的精神的に、すべての行いに責任と自覚をもつ。
3. コミュニティーの生活を通して、相互の関係が知識と自覚によって統制されている個々人の形成を追及する。生活の基本ルールは常識的な感覚を持ち、他者を思いやること、違いを歓迎し十分に生かすことである。

エコロジカルな社会の実現

ダマヌールでは「地球全体に及ぶエコロジカルな社会の実現」に取り組んでいます。ダマヌールが目指す『エコ社会』とは、より良い地球環境、調和的な人間関係、あらゆる生命体との調和的共存、異なった社会間交流と協働を実現することです。過去には国際連合から“グローバルな人間の共同社会フォーラム2005”賞を授与され、国連環境計画（UNEP）の初代事務局長や国際連合人間居住計画（ハビタット）の高官等と共に、公開討論会の場でダマヌール連合体代表者とダマヌールの功績が紹介されています。

さらに2008年には地球憲章国際会議において「地球憲章に完全に適応した実例と言える社会モデル」として公式の承認を与えられました。地域と共生するコミュニティー、持続可能な新しい社会モデルとして、ダマヌールは大きな夢を団結の力で実現したのです。

ダマヌール独自の「新しい社会の実現」の思想が、地球や世界に対して有意義な貢献であると認められ、ダマヌールには世界各国から毎年数千人の人びとが現地での見学と体験のために訪れています。

精神性でつながる新しい民族(ポポロ)の誕生

これまでに地球上では多くの民族や種が消滅し、人類の歴史や文化の多様性が失われています。この状況に立ち向かうために、ダマヌールでは独自の哲学や社会的な表現、芸術性を持った人間のグループを創りました。個々の違いを尊重し、精神的価値を共有する新しい民族です。

民族と個人は共生の過程によってより深いつながりを持ちます。個人は、常に限界を超えるために内面的質の飛躍によってより良い自分を表現し、自分が民族全体の一部であるという自覚を持ちます。民族の進化は個人の進化を加速させます。各人のエッセンスや能力を交換し、互いの成長のために利用し、より複雑な形態や精神的な力の創造ができるようになります。民族自体が生きている細胞や組織のように成長し進化し続けます。そして民族に属する誰もが、高い神聖な次元との交信が可能になります。

精神的民族に参加する

ダマヌールの民族は、連合体に住んでいなくても精神的な成長のために行動したいと願う多くの人々が参加することによって、豊かな組織として発展を遂げています。参加するチャンスは、世界中の精神的な探求者たち、ダマヌールの精神的な目的に賛同する人、人類の覚醒に向けた光のポイントになりたいと願う人びとに開かれています。

～ダマヌールの精神的民族とは～

- 常に自分自身や周りの人に対し、また、いろいろな出来事に関し、ポジティブな考えや行動で接していく。
- この民族に参加する様々な人たちのことを自分の兄弟のように考える。



- 一人ひとりの違いを豊かさとして認識し、お互いが尊重し信頼して相互に支えあい、団結に基づく関係を維持する。
- 自分自身の内面的探求をしながら、自分自身を変え続けるということを大切にする。
- 地球や自然を守るためのエコロジカルな探求を大切に、汚染や浪費、無駄をなるべく減らすようにする。地球上のあらゆる生命体に対して敬意と愛情を持って接する。
- 各自が生きるそれぞれの場所で、精神的民族の原理を広めることを促進する。他の人びとが民族の原理を共有できるよう働きかけることで、地球上全体の“光のポイント”のネットワークの創造を可能にする。

お互いの違いを認め合い個性を尊重するというのは、個人的要求による自分勝手な行動の容認ではありません。「私の地球という星」という意識をもって、大きな視点で倫理を遵守することで得られる“高貴な自由”という、より大きな調和を生み出すものです。自分の要求のみに捕われた偽りの自由の状況から脱した、真の自由を指すものです。

地域への貢献

ダマヌールが目指す「地球全体に及ぶエコロジカルな社会の実現」のひとつとして、地域に対しても開かれたユニークな活動を展開しています。また利他主義に基づき、自分たちのコミュニティーで役に立った体験や研究成果などは広く社会に還元し、自分たちが参加する地域社会や地球環境に、行動を通じた啓蒙を行っています。

イタリアは財政難で膨大な医療財政の赤字があり、過疎地域の緊急医療には問題がありました。ダマヌール連合体の幾つかのコミュニティーのあるピダラッコ村も例外ではなく、救急救命システムはイタリア赤十字が主催するボランティアによる地域医療救急サービスに委ねられていました。ダマヌールでは、市民がこのボランティアに参加し、毎日24時間の活動に従事していました。また、森林消防隊の活動と設立、自然災害や事故の際の保護救助活



めて価値を与えるエコミュージアムの取り組みを行いました。廃墟となっていた水車小屋を、歴史や伝統文化を知る博物館を兼ねた場所に再生したことで、年間を通して周辺地域の学校が社会見学に訪れます。さらに発電や水源の確保による良質で安価な資源供給の推進なども行われています。また、エコロジーと経済効率に配慮して天然ガスを利用した夜間の安全のための街灯や、情報通信環境の整備、飲料水の給水所など、周辺の村々とは比べられないほど充実しています。このようにかつての過疎の村は活力のある村へと再生し、イタリア1周自転車競技の中継地にもなりました。

また地元産チーズ、ハーブ、はちみつ、ワインなどの食文化や地方伝統の

動…日本では自衛隊に委嘱されるような仕事に、訓練を受けたダマヌール市民がボランティアで参加していました。イタリア政府からの要請を受けて、コソボ難民救済やスマトラ沖津波災害、国内ではラクイラ地震の救助にも参加しました。こうした過疎地域での市民の活動がうまく機能した事例は行政に影響を与えています。現在では行政が指揮をとり、ダマヌール市民が主体になることはありませんが、継続してボランティア活動を続けています。

各コミュニティにはAEDが設置され、市民は救命講習を受けています。また、感染症への予防対策として連合体全体で教育と訓練を行い、隔離等の対策の手順書を持って地域の安全にも協力しています。

地方政治への参加と過疎地の復興

ダマヌールが在る地域の地方政治は、村長と村会議員の21人で構成されています。村長や村会議員の報酬は住民数割りで支給されるので、小さな村ほど支給額が少なく、村長や村会議員は主な仕事を別に持っていて、ボランティアで地方自治に携わっているのが現状です。しかし、都市の市長と地方の村長は同じ発言権がありますので、小さな村の提案であっても良いプロジェクトは認可されて国の予算がつく可能性があります。

ダマヌールではコンテ・ペル・イル・パエーゼ(村のためにあなたと共に)という政党を結成し、地方政治にも関わっています。コンテ・ペル・イル・パエーゼは地域住民からも広く信頼されていて、ビダラッコ村では、ダマヌール市民の支持のみでなく、地域住民の支持をも得て、村長と、村会議員の過半数は15年以上もダマヌール市民が担っています。議員となった市民は、支給されるわずかな報酬では生活ができないため、ダマヌール全体で不足分をオファーして仲間の活動を支えています。

ビダラッコ村では、過疎化した村に再び活力を呼び戻そうと、環境や歴史を活かし、その地域の文化伝統に改

手工芸、かつてイタリアの産業を支えていた、地域の小規模な製造所や流通の復興にも積極的に関わっています。人間の人生の豊かさは、個々の違いを認めることから始まり、物質や経済優先でなく、生み出したものによって交流するという理想を表しています。

ダマヌールクレアの誕生

タイプライターで有名だったオリベッティの工場跡地をダマヌールが買い取り、市民の手作業で建物の内部を改装し、2004年にダマヌールの芸術の拠点となる施設としてオープンさせました。ここにはピエモンテ州公認の「芸術専門学校」や、さまざまな芸術の工房、レストランやバー、クリニック、会議場、絵画のギャラリー、有機認定食品や非遺伝子組み換え製品を取り扱うスーパーマーケット、セルフの工房、セルフティックなヒーリングや各種のヒーリングが受けられるスペースなどがあります。ダマヌールクレアを拠点にした、文化・芸術を推進し過疎の村を芸術の村として復興させるプロジェクトにより、地元の人びととの交流が行われています。

工場跡地を買い取る経済的な努力は容易ではありませんでしたが、新たな仕事を生み出すこのプロジェクトへの投資は団結をもって行なわれて実現しました。緑豊かなイタリアの田舎に独自の産業を定着させ、豊かな暮らしを提供し、地域全体に事業を発展させることを願ったアドリアーノ・オリベッティの理想を受け継ぐこともできました。

500人を収容する会議場では、医学やエコロジー、ニューエネルギー、法律、経済の専門家を招いて、人間が生きるために必要な、あらゆる情報を得るためのコンベンションを企画開催しています。ノーベル賞にノミネートされた科学者、世界的な社会学者や物理学者など有名な知識人のカンファレンスも行なわれてきました。また、周辺のいくつかの村の住民も参加するダンス教室の発表会には、子どもから大人まで会場は人で溢れます。

次世代への教育

ダマヌールで生まれた子どもたちは、生みの親の他に、人生の相談役となる精神的な後見人をコミュニティ内に持ちます。両親だけでなくコミュニティの全ての人たちが、個々の子どもの個性を伸ばす教育方針に関心を持ち共有しています。伝統を受け継ぐ子どもたちが個性豊かに育つよう、学校と家庭は24時間の体制で連携がとられています。

子どもたちは、国の教育課程を基準とした独自のカリキュラムを持つプライベートスクールで初等教育を受けています。少人数の年齢を越えた複式学級で、兄弟姉妹のような助け合いの体験や、旅などの実体験を通して個々の興味を引き出し、個性を伸ばすことを重視しています。自然保護団体グリーンピースの協力を得て、船の見学もしています。

子どもたちは20歳前後になると、ここで生きるのか外へ出ていくのかを自分の意志で決定します。ダマヌールで生きる選択をすると、市民の形成グループに所属し、親から離れて自分の所属するコミュニティを選択することになります。

また、サジティーニと名付けられた若い市民のグループもあります。コミュニティで育った子どもたちや、ニューライフ（外部の人が市民生活を体験する制度）でやってきた20歳代の青年たちの中から、選挙で選ばれた代表が独自の感性を活かし、次世代に向けたダマヌールの情報発信のアイデアについて大人たちと意見交換をします。

コナクレイス

イタリアはカトリックの国で、カトリックと異なる精神性の探求をしているグループは、不当な扱いや弾圧を受けることがありました。しかし、違いこそが豊かさであるという視点から、カトリックと異なる倫理や精神性を探求するためのグループが連携して、社会福祉や文化教養を高める一つの動きとして存続できるように「コナクレイス」という協議会を設立しました。これはイタリア全土にネットワークがあり、イタリア政府から社会福祉促進協会として公認され、会長と事務局はダマヌールが引き受けて維持しています。そして精神的な価値や倫理に関して様々なコンベンションや意見交流が行なわれています。

また、ヨーロッパGEN（グローバル・エコビレッジ・ネットワーク）の執行部として活動する市民もいます。

補完通貨 クレジット

ダマヌールはクレジットという独自の補完通貨システムを生み出しました。クレジットは「信頼」という意味で、協働と団結の倫理的価値に基づいた新しい経済のあり方を発展させるという目的があります。一部の権力や戦いのために流通する通貨ではなく「人間がよりよく生き、地球の未来にとってよいことのため」に流通させ、その効果を生み出すための通貨なのです。

コミュニティ内では基本的にクレジットがユーロと同等の価値として交換手段に用いられています。また周辺の一般の小売店や、イタリア内外のダマヌールのセンター、他のコミュニティ（フィンドホーン）でも受け入れられています。

聖なる森の整備と自然とのコンタクト

木々は人間にはない特性と高い精神性や知識や感情を兼ね備えた存在です。かつて人間が高い精神性を持っていた時代には、植物との調和的な関係を築き、進化に向けて共同していました。植物との共同関係を取り戻すことは、人類の未来に大きな可能性をもたらします。

そのために、30年前からダマヌールのテリトリー内では、何万本もの木の活性化を行い、進化に向けた共同関係を受け入れる木々を1本1本増やしてきました。人類の神殿のちょうど真上の屋外部分にあたる「聖なる森」は、荒れ果てた森でしたが、長年の手入れにより様々な命の存在が宿る森としての活力を取り戻しました。現在ではさらに「植物の神殿」として整備が進められています。

ダマヌールの健康観とヒーリング

自分自身を変えて積極的に新しいことに取り組み、他者との関わりによって更に進化してプロジェクトに取り組むダマヌールの人びとにとって、健康の自己管理は重要なことです。人間を、肉体・魂・マインドの3つの部分を包括する存在と捉えているダマヌールでは、肉体のみでなく、魂やマインドに予防的に働きかけるプラノセラピーを筆頭としたホリスティックな療法を用いています。

プラノセラピーは古代から伝えられる療法で、生命のエネルギー“プラーナ”を、オーラを介して中継するものです。肉体と精神を守る盾となるオーラの不調和に働きかけ、バランスを取り戻すことで、人生の様々な状況で必要な出来事を引き寄せ、変化をもたらします。変化を受け入れる新たな意識を生み、夢の実現と理想に向けた行動を促し、更なるポジティブな変化を可能にします。

プラノセラピーは日本でも受けることができます。



シンクロニックラインの交差点につくられたエネルギースポット 人類の神殿

地球上を駆け巡り宇宙へとつながる、情報や感情を運ぶサトル（微細）なエネルギーの河・シンクロニックライン。シンクロニックラインが4本交差する地球上でも稀な場所に、人類の覚醒のために捧げられた神殿はつくられました。スピリチュアルなエコシステムの存在との交流や共同作業によって物質世界と精神世界をつなぐ、人類の進化や発展のための研究室です。シンクロニックラインは「命の高速道路」とも呼ばれ、生まれ変わりのオペレーションにも深く関わっています。

神殿は地下にあり、建設着手後36年を過ぎた現段階で、ようやく構想の半分が完成したといわれています。内部は壁画、ステンドグラス、モザイク、彫金、塑像と、ダマヌールの芸術の粋を集めて表現されています。神殿を造り上げる作業は、手を動かし、継続した行動によって生み出される成果であり、ダマヌールでいう“瞑想”です。今年の夏、神殿の壁画を描いたダマヌール日本の仲間の体験をご紹介します。

体験記

人類の神殿の壁画を描く



初めて「人類の神殿」を訪れた時の衝撃的な感銘は、今も私の心身に深く刻まれています。足を踏み入れた瞬間、全身に衝撃が走り、身体中の毛穴が全開したようで、細胞の一つひとつに神殿から発せられるエネルギーが深く染み込むような強烈なインパクトと驚きがありました。「神殿は生きている！」「ここは人間が創造し続けている、この世の芸術の最高群！」と確信したと同時に、絵心のあった私は「ここで絵を一筆でも描く事が出来たら、死んでもいい！」と密かに願っていました。

今年、遂に念願叶ってチャンスが訪れました！現地の画家さんに混じり、10日間、延べ63時間もの間、神殿の壁画を描くという…この人生で最高とも言える貴重で素晴らしい体験をすることができたのです。

神殿の絵の第一筆…ホビットさんに連れられ向かった先は「迷宮の部屋」の新しく拡大されているエリア。…天井迄届くほどに高く組まれた足場が並び、四方八方の壁面いっぱい、大胆な構図の中に一つひとつ意味を持つ多種多様なモチーフが緻密に描き込まれた世界が広がっています。脈々と生きた鼓動が伝わるエネルギーッシュな空間…その一面に描かれた像の足下のスペースを指して「ここにサンダルウッド（ビャクダン）を描いて！」と言渡されました。

私はてっきり画家さんの下書きに彩色を

施す作業とっていて、まさか真っ白なスペースに構図から任されるとは思ってもみなかったため、驚きと喜びが入り混じったスタートとなりました。写真を参考にして、木の枝や葉っぱ、花や実を、好きなように組合せて自由に描くよう、サンダルウッドの数枚の写真が渡されて、実働開始となりました。一筆一筆にプラスの思い、うれしい思いを込めて描くように心がけながら、「ちっぽけな個人意識が邪魔しないよう…描き過ぎないように、描き足り無くないように…適切ところで、筆を止めてください！」と祈りながら筆を運びました。

神殿の責任者ピオブラさんを筆頭に6名の素晴らしい画家さんたちはとても親切で、作業の合間を見計らって代わる代わるの様子を見に来てくださって、何かしら声を掛けて、暖かく接してくださいました。連日の作業がスムーズに運ぶように関わってくださった全てのみなさんのお陰を持って、絵を描く事だけにひたすら集中し没頭出来たため、滞在期間内に2箇所につき、計2つの植物を描きあげました。

時間の大半は「サンダルウッド」に費やされました。描いても描いても描きたらず…どんどん細部にわたる描写がつけ加えられていき、やっと筆が止まった時に



は、残すところ2日となっていました。残りの2日間で責任持って描き終えるためには、小さな作品！…ということで別のコーナーの壁面に「木苺」を描く事になり、新たな壁面に向かいました。すると、まるで別人の手のように下絵が早々に完了。筆運びもハイスピード！葉っぱ、実…と次々に色付けられていき、アツと言う間にステンドグラスの縁に、小さなつぼつぶの木苺が描けました。

筆を置き、みなさんに帰りの挨拶をする時がやって来ました。深く豊かな日々を過ごした滞在中の一コマ一コマが走馬灯のように記憶を駆け巡り…感無量でした。「次は、いつ戻って来るの!？」…見送っていた方々から、口々に暖かい言葉を賜り…チャンスの再来を心の底から願って止みません！

感謝を込めて。Con voi, Tonno



ダマヌール日本 オロヴェリイの活動について

ダマヌール日本は世界中にあるダマヌールのセンターの一つとして、持続可能な社会を実現するための情報と、より良く生きるための精神的な知識やヒーリングを日本にもたらすために1999年より活動しています。

ダマヌールのプロジェクトである「木の活性化」の促進、多くの古代文明で用いられていたセルフイカの知識の研究から生まれた「セルフ」の紹介、起源的な生命のエネルギーを使うダマヌールのヒーリング「プラノセラピー」の提供、ダマヌールの独自の知識に基づく「人間の潜在能力を覚醒する」ための各種セミナーの開催、ダマヌール関連書籍などの紹介を行なっています。

ダマヌールの哲学や考え方に共鳴する人々と出会い、共に学びながら倫理や精神的価値を実用的に社会の中で表現することを目指します。また、より多くの人が宇宙的ビジョンに基づく生き方をして、世界がより大きな調和に向けてより良く変化することを熱望しています。

お問い合わせ先

メールもしくはFAXにてお問い合わせください。

ダマヌール日本

damanhur@cty-net.com Fax 059-355-5614

ダマヌール日本 神戸センター

damanhur-kobe@s5.dion.ne.jp Fax 0798-23-9161

ダマヌールのテリトリーに滞在する現地体験ツアー。サーキットを歩き、人類の覚醒のために捧げられた「人類の神殿」を訪問します。目を見張るような美しい神殿内であなたは何を感じるでしょうか？

一つ一つの部屋の異なったエネルギーや装飾の芸術から直感や想像力を刺激される人もいます。

セルフイックペインティングのギャラリーでは、気に入った絵の前で瞑想することができます。ここでも、メッセージを受け取ったり、シンクロニシティを引き寄せたりする人もいます。

オプションのヒーリング、オーガニックな食事やワイン、感性豊かなダマヌールの人々との交流、滞在中に見る夢、上手くいくことも失敗も…それら全てが現地体験セミナーです。すばらしい体験があなたを待っていることでしょう。

★日程 2015年3月19日(木)～24日(火)
日本到着は3月25日(水)

★費用 約1,500ユーロ

・集合 イタリア トリノ空港
・日本各地からトリノ空港までは個人旅行になり、航

空券代は費用に含まれていません。各自でトリノ空港着の便を手配してください。手配の分からない方はセンターへご相談ください。

・全宿泊、食事、通訳費、トリノ空港～ダマヌールまでの送迎費込み、ヒーリングはオプションです。

★最少催行人数 5名以上

★現地体験セミナープログラムの一例

1日目 到着 トリノ空港より送迎の車でダマヌールへ移動

2日目 ダマヌールの概要を知る施設見学

3日目 ダマヌールの哲学を知る。春分の日儀式見学。

4日目 人類の神殿訪問
午後ダマヌールのヒーリング体験
(オプション、料金別途)

5日目 神殿の中での瞑想、聖なる森の見学、サーキットの体験

6日目 ダマヌール出発、トリノ空港で解散。帰国の途につく。日本着は翌日。

★プログラムは都合により、変更や入れ替わることがありますのでご了承ください。

現地体験セミナーへのお誘い 6日間の ダマヌール体験!

ダマヌールのコミック 「時へのチェックメイト」より (13)

新たな提案が示されます…



協力者が現れます…